

2016年12月期 決算説明会

2017年2月14日

JUKI株式会社

代表取締役社長 清原 晃

Mind & Technology

JUKI

Mind & Technology

目次

第1部 2016年12月期(2016年度) 業績概要と2017年度業績予想

1. 業績推移・配当	3
2. 経常利益増減要因	4
3. 主要財務項目、キャッシュ・フロー	5
4. セグメント別業績推移	6
5. 2017年度業績予想	10

第2部 中期経営計画「Value up 2022」 (2017年度－2019年度)

1. 環境認識	13
2. 中期計画で目指す姿、成長の好循環	14
3. 中期計画ビジョン、2019年度の目指す姿	16
4. 経営の枠組みの変更	18
5. 各事業の目指す姿	20

第1部
2016年12月期(2016年度)
業績概要と2017年度業績予想

売上高は、事業領域拡大のためのソリューション営業を強化し、自動化・省力化の提案活動に取り組みましたが、中国経済の減速など世界経済の不透明感が高まり景気の停滞が続く中で、円高で推移したことなどから、前年同期比13.4%の減収

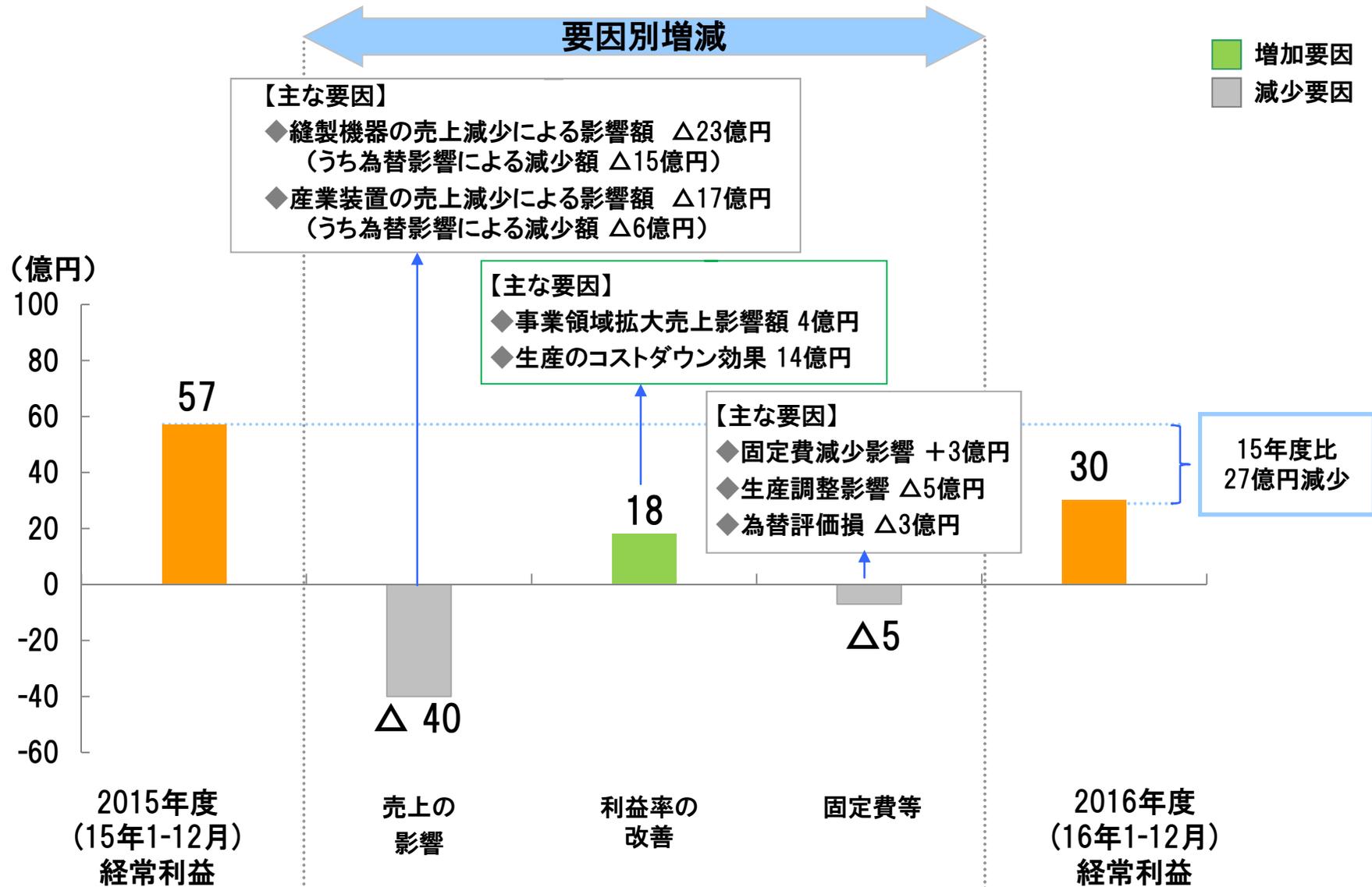
利益面は、生産面でのコストダウン効果はあったものの、売上の減少などの影響で、営業利益は前年同期比34.6%の減益。期中において円高に推移したため外貨建債権の評価替等による差損が発生し、経常利益、当期純利益とも減益

	(百万円)				[参考]	(百万円)			
	14/12期 (14年度)	15/12期 (15年度) 〈A〉	16/12期 (16年度) 〈B〉	前年同期比 増減額 〈B-A〉 (増減率)	16/12期(2016年度)四半期実績				
	14年1-12月	15年1-12月	16年1-12月		1Q	2Q	3Q	4Q	
					16年1-3月	16年4-6月	16年7-9月	16年10-12月	
売上高	107,581	112,865	97,724	△15,140 (△13.4%)	25,910	25,081	22,292	24,441	
営業利益	8,217 [7.6%]	7,110 [6.3%]	4,651 [4.8%]	△2,458 (△34.6%)	1,455 [5.6%]	573 [2.3%]	748 [3.4%]	1,875 [7.7%]	
経常利益	7,710 [7.2%]	5,728 [5.1%]	3,022 [3.1%]	△2,705 (△47.2%)	831 [3.2%]	△225 [△0.9%]	701 [3.1%]	1,715 [7.0%]	
当期純利益	6,058 [5.6%]	3,853 [3.4%]	1,883 [1.9%]	△1,970 (△51.1%)	650 [2.5%]	△882 [△3.5%]	342 [1.5%]	1,773 [7.3%]	
配当 (株式併合後基準)	20円/株	35円/株	20円/株	△15円/株	—	—	—	—	
為替 レート	ドル 106円 ユーロ 141円	ドル 121円 ユーロ 135円	ドル 110円 ユーロ 121円	△11円 △14円	116円 129円	108円 121円	103円 115円	109円 118円	

* 為替レートは営業利益に影響する期中平均レート

* []は売上高利益率

事業領域拡大やコストダウン等の効果はあったものの、売上の減少等により前年同期比減益



1-3

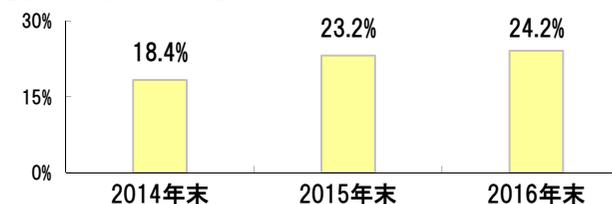
主要財務項目、キャッシュ・フロー



- 自己資本比率は24%に上昇
- 有利子負債は72億円減少
- キャッシュ・フローは、在庫削減等により営業CFが大幅に増加
(百万円)

	15/12期末 (15年12月末) 〈A〉	16/12期末 (16年12月末) 〈B〉	増減額 〈B-A〉
総資産	119,281	111,365	△7,916
純資産 [為替換算調整勘定]	28,477 [△1,148]	27,582 [△2,274]	△895 [△1,126]
純資産比率	23.9%	24.8%	0.9%
自己資本比率	23.2%	24.2%	1.0%
売上債権	31,263	30,741	△522
在庫 [在庫回転期間]	42,647 [4.5ヵ月]	37,616 [4.6ヵ月]	△5,031 [0.1ヵ月]
仕入債務	10,126	9,972	△154
有利子負債	67,375	60,158	△7,217
現預金	7,906	8,048	142
為替レート (期末)	ドル		
	121円	117円	△4円

【自己資本比率】

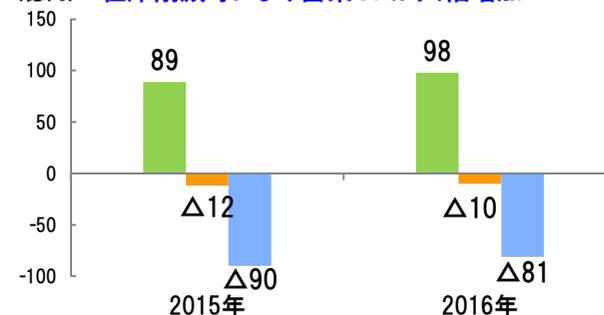


【有利子負債(現預金控除ベース)】



【キャッシュ・フロー】 営業CF 投資CF 財務CF

(億円) 在庫削減等により営業CFが大幅増加



1-4-1

セグメント別業績 売上高推移



縫製機器は、市場別ではバングラデシュ・インドネシアなどの新興国や欧米で売上が拡大し、製品別では自動車シートなどのノンアパレル向け製品に成果が見られたものの、円高で推移したことにより売上高が目減りしたことなどから、前年同期比11.9%の減収

産業装置は、市場別では最大の市場である中国や米州での売上が減少したこと、製品別ではラインソリューション戦略で展開する新型マウンタなどの売上は伸びたものの、既存マウンタの落ち込み分をカバーできず、前年同期比25.7%の減収

	14/12期 (14年度)	15/12期 (15年度) 〈A〉	16/12期 (16年度) 〈B〉	前年同期比 増減額 〈B-A〉 (増減率)	【参考】 (うち 為替影響額)	16/12期(2016年度)四半期実績			
	14年1-12月	15年1-12月	16年1-12月			1Q	2Q	3Q	4Q
縫製機器	77,991	86,147	75,866	△10,281 (△11.9%)	(△7,820)	19,817	19,659	17,281	19,109
産業装置	22,432	20,518	15,237	△5,281 (△25.7%)	(△1,670)	4,555	3,719	3,380	3,583
その他	7,157	6,199	6,620	421 (6.8%)		1,538	1,702	1,630	1,750
合計	107,581	112,865	97,724	△15,140 (△13.4%)	(△9,560)	25,910	25,081	22,292	24,441
グループ 事業	7,830	8,454	8,501	47 (0.6%)		1,973	2,202	2,052	2,274

*グループ事業の売上高:縫製機器、産業装置、その他セグメントの中からグループ事業に属する売上高を集約

1-4-2

セグメント別業績 経常利益推移



- 縫製機器は、コストダウン効果があったものの、円高の影響などにより、前年同期比減益
- 産業装置は、事業全般に渡る構造改革により費用削減効果はあったものの、売上の減少や競合他社との競争による利益率の低下などにより、前年同期比減益

	(百万円)				【参考】 (うち 為替影響額)	[参考] (百万円)			
	14/12期 (14年度)	15/12期 (15年度) 〈A〉	16/12期 (16年度) 〈B〉	前年同期比 増減額 〈B-A〉		16/12期(2016年度)四半期実績			
	14年1-12月	15年1-12月	16年1-12月		1Q	2Q	3Q	4Q	
					16年1-3月	16年4-6月	16年7-9月	16年10-12月	
縫製機器	7,306 [9.4%]	8,290 [9.6%]	6,503 [8.6%]	△1,787	(△1,500)	2,133 [10.8%]	1,288 [6.6%]	1,473 [8.5%]	1,609 [8.4%]
産業装置	71 [0.3%]	△1,680 [△8.2%]	△1,792 [△11.8%]	△112	(△560)	△540 [△11.9%]	△546 [△14.7%]	△349 [△10.3%]	△357 [△10.0%]
その他	323 [4.5%]	96 [1.5%]	2 [0%]	△94		△32 [△2.1%]	△173 [△10.2%]	10 [0.6%]	197 [11.3%]
調整額	9	△978	△1,691	△713	(△360)	△730	△793	△432	264
合計	7,710 [7.2%]	5,728 [5.1%]	3,022 [3.1%]	△2,705	(△2,420)	831 [3.2%]	△225 [△0.9%]	701 [3.1%]	1,715 [7.0%]

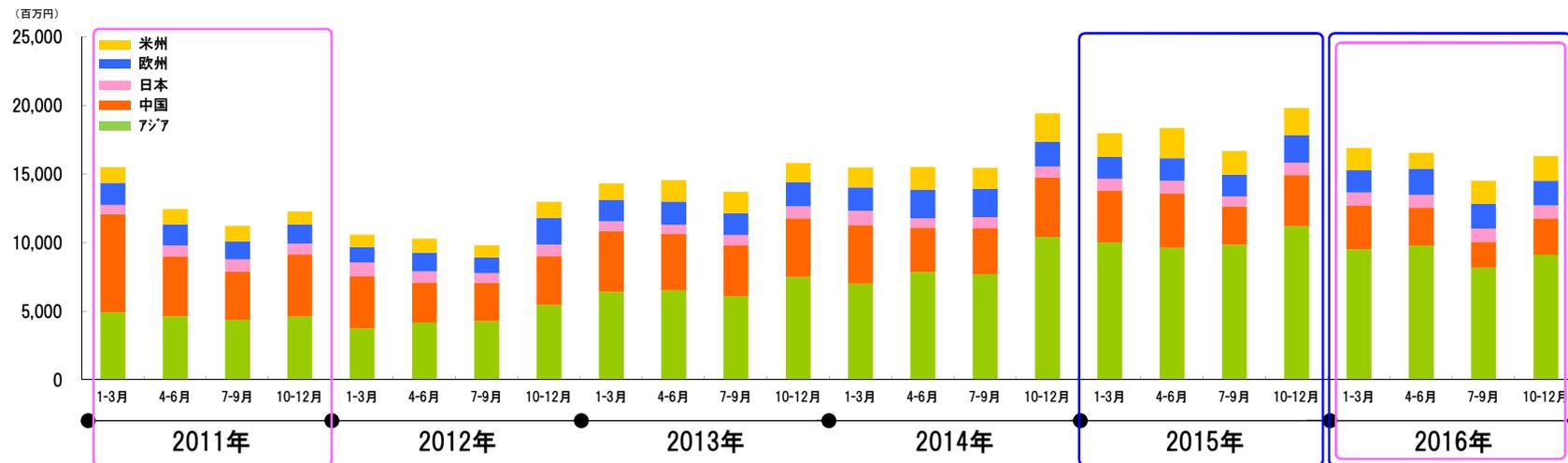
[]は売上高経常利益率

(参考①)

セグメント別業績 縫製機器事業:工業用マシン

アジア新興国地域での販売は伸び悩んだものの引き続き堅調であり、売上高比率は57%に拡大
中国のウエイトは16%に低下

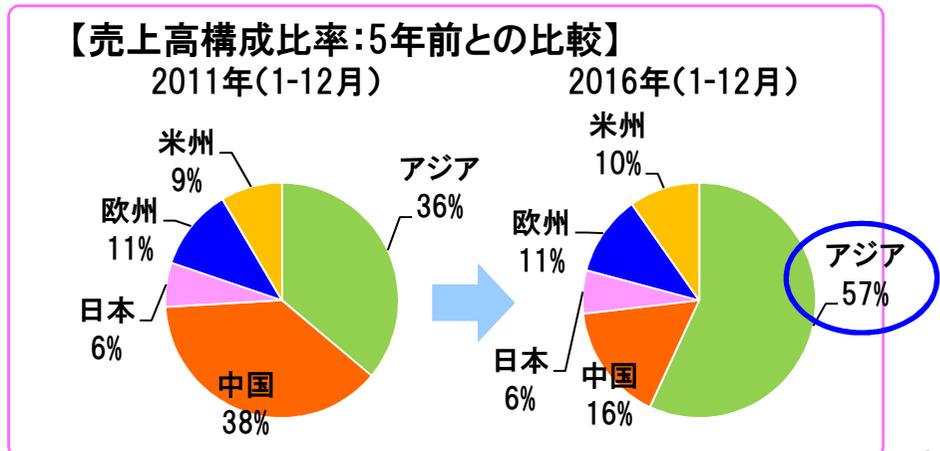
【縫製機器:工業用マシン製品の地域別売上高推移】



【売上高:前年同期比較】

	(億円)		増減額	(増減率)	
	2015年 (1-12月)	2016年 (1-12月)		為替影響 含む	為替影響 含まず
アジア	407	366	△41	(△10%)	(±0%)
中国	143	105	△38	(△27%)	(△14%)
日本	34	38	4		
欧州	68	71	3		
米州	76	63	△13		
合計	728	643	△85	(△12%)	(△1%)

【売上高構成比率:5年前との比較】



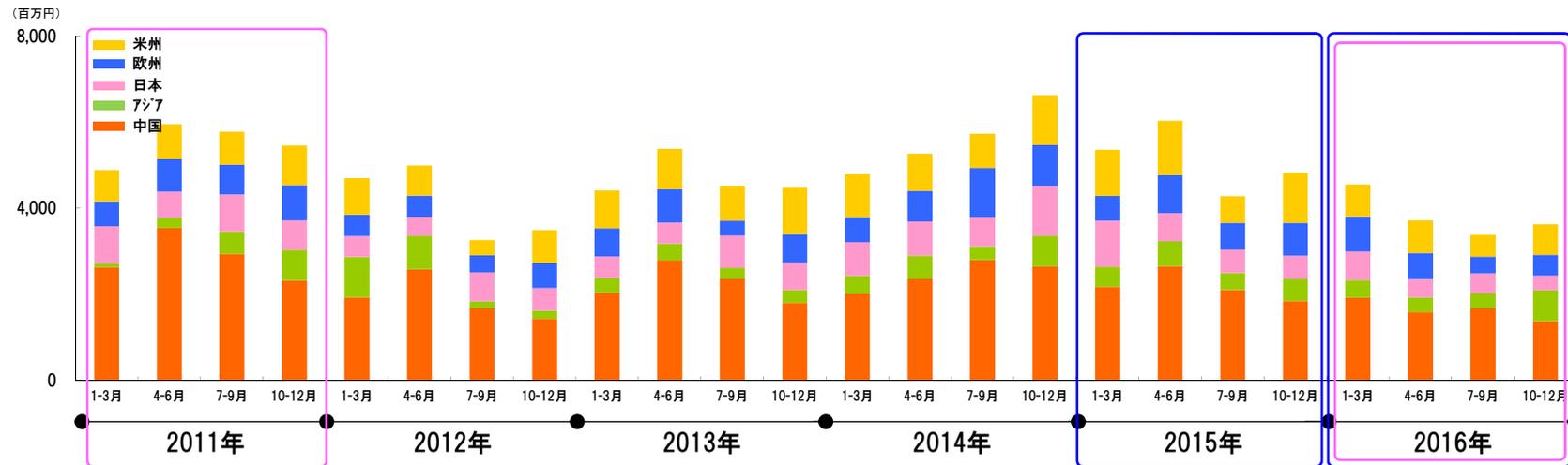
(注)月次の工業用マシン製品の販売数字を集計したものであり決算数字とは合致しない

(参考②)

セグメント別業績 産業装置事業

最大の市場である中国は、経済の減速による影響で設備投資需要の減退が継続し減収

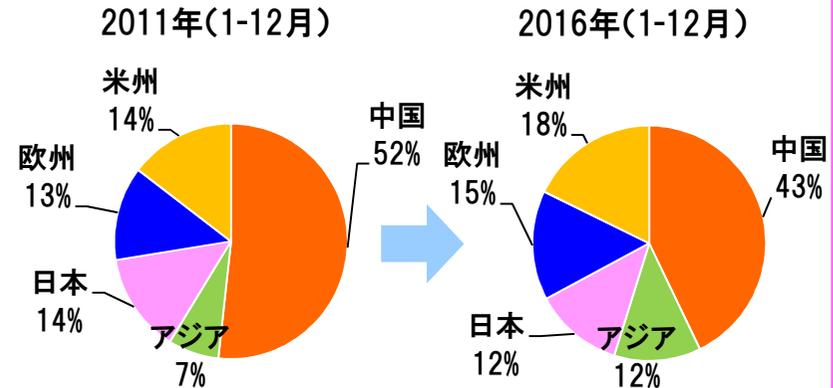
【産業装置：地域別売上高推移】



【売上高：前年同期比較】

	(億円)			
	2015年 (1-12月)	2016年 (1-12月)	増減額	(増減率) 為替影響 含む
中国	88	66	△22	(△25%)
アジア	20	18	△2	
日本	28	19	△9	
欧州	28	23	△5	
米州	41	27	△14	(△34%)
合計	205	153	△52	(△25%)

【売上高構成比率：5年前との比較】



(注) 月次の販売数字を集計したものであり決算数字とは合致しない

1-5-1

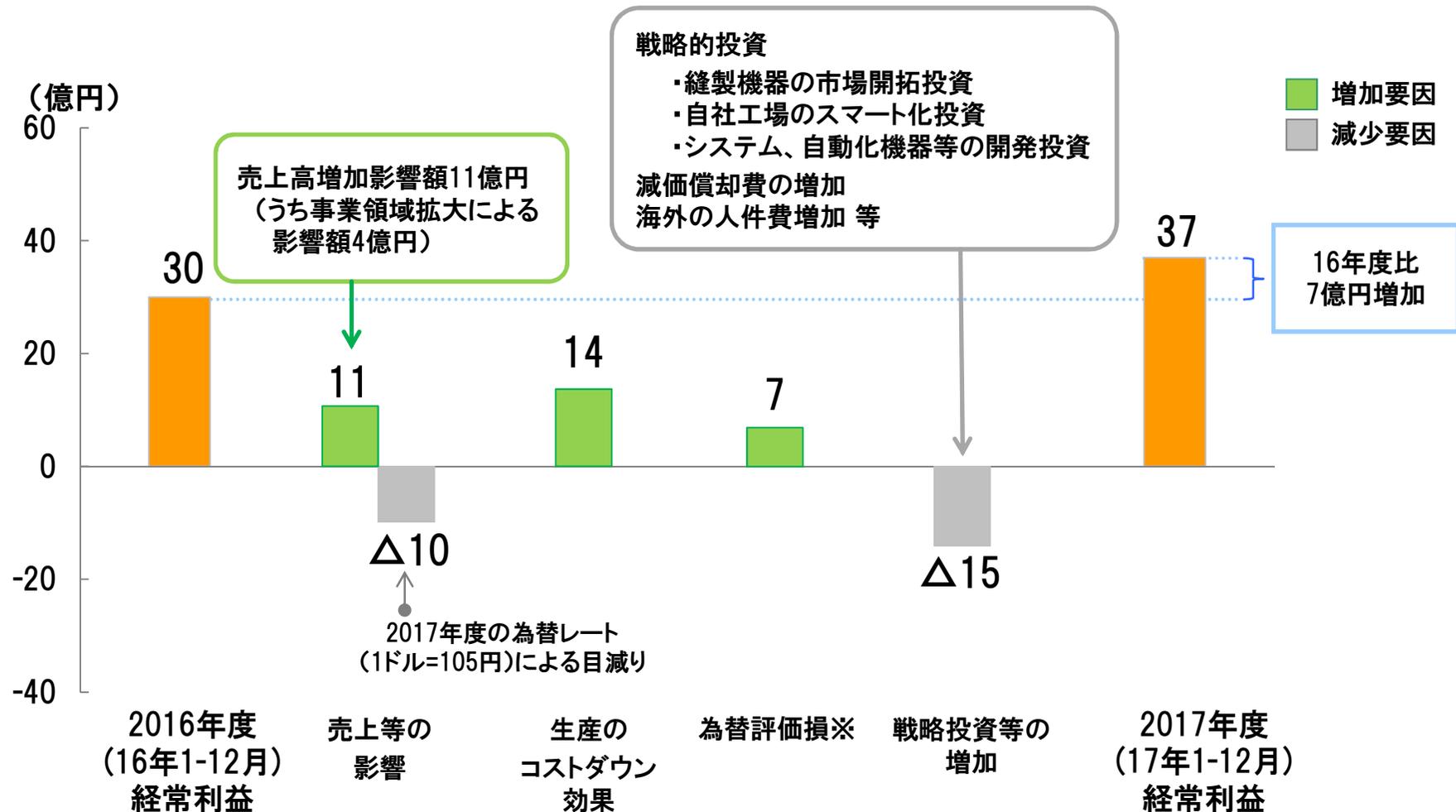
2017年12月期(2017年度)業績予想



(億円)

新セグメント基準	2016年度 実績	2017年度 業績予想
	通期(1-12月)	通期(1-12月)
売上高	977	1,010
(縫製機器&システム)	(682)	(700)
(産業機器&システム)	(295)	(310)
営業利益	47	48
経常利益	30	37
当期純利益	19	22
配当	通期:20円/株	通期:20円/株
為替レート	1ドル=110円	1ドル=105円

2017年度の為替レート(1ドル=105円)による目減り(△10億円)や戦略投資等(△15億円)はあるものの、生産のコストダウン効果(14億円)や売上増加影響額(11億円)などにより増益



※為替評価損:2016年度は△12億円の実績、2017年度は△5億円の計画

第2部
中期経営計画

Value up 2022

(2017年度—2019年度)

経済環境

- 英国のEU離脱、米国のトランプ大統領就任
➡ 経済連携は「統合」から「拡散」へ
新興国、アジアの不安定性が増加し、
世界経済は「不確実性」が増大

事業環境

- デジタル化、IoT化、AIの技術革新が進む
➡ お客様工場のスマート化が加速
- 「マスカスタマイゼーション」と
「マスプロダクション」の2つの動き

企業への
要請

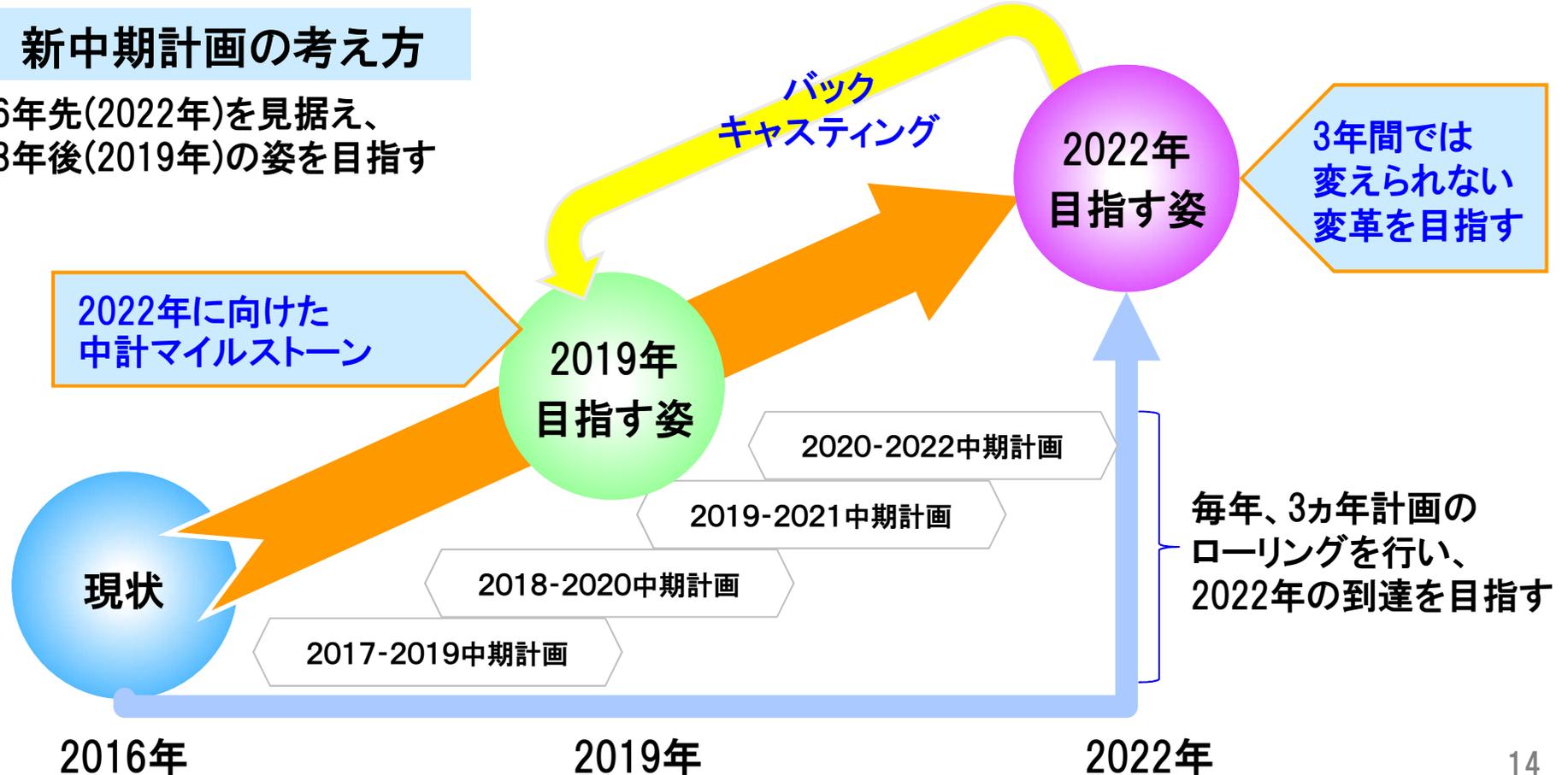
- 経営体制の合理化
 - ・コーポレートガバナンス体制の強化
- 利益重視の経営
 - ・毎年の増収増益かつ配当の安定化

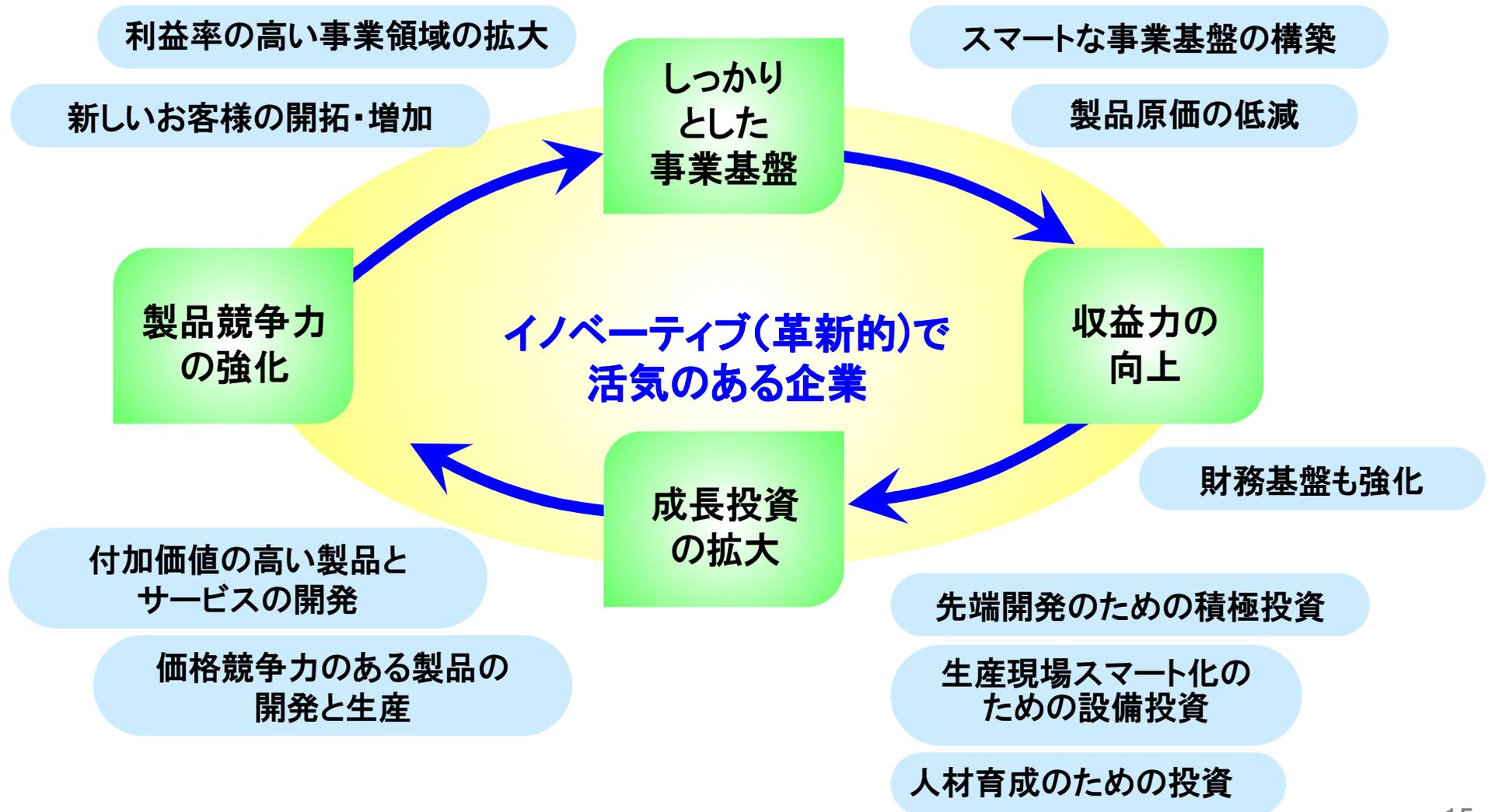
長期ビジョン

21世紀を生き抜くグローバルでイノベーティブ(革新的)な ものづくり企業

新中期計画の考え方

6年先(2022年)を見据え、
3年後(2019年)の姿を目指す





2022年
ビジョン

お客様とJUKIが製品・サービスを通じて
企業価値の向上ができるものづくり企業

～スマートファクトリーに向けて
WinWinのパートナーへ～

2019年
ビジョン

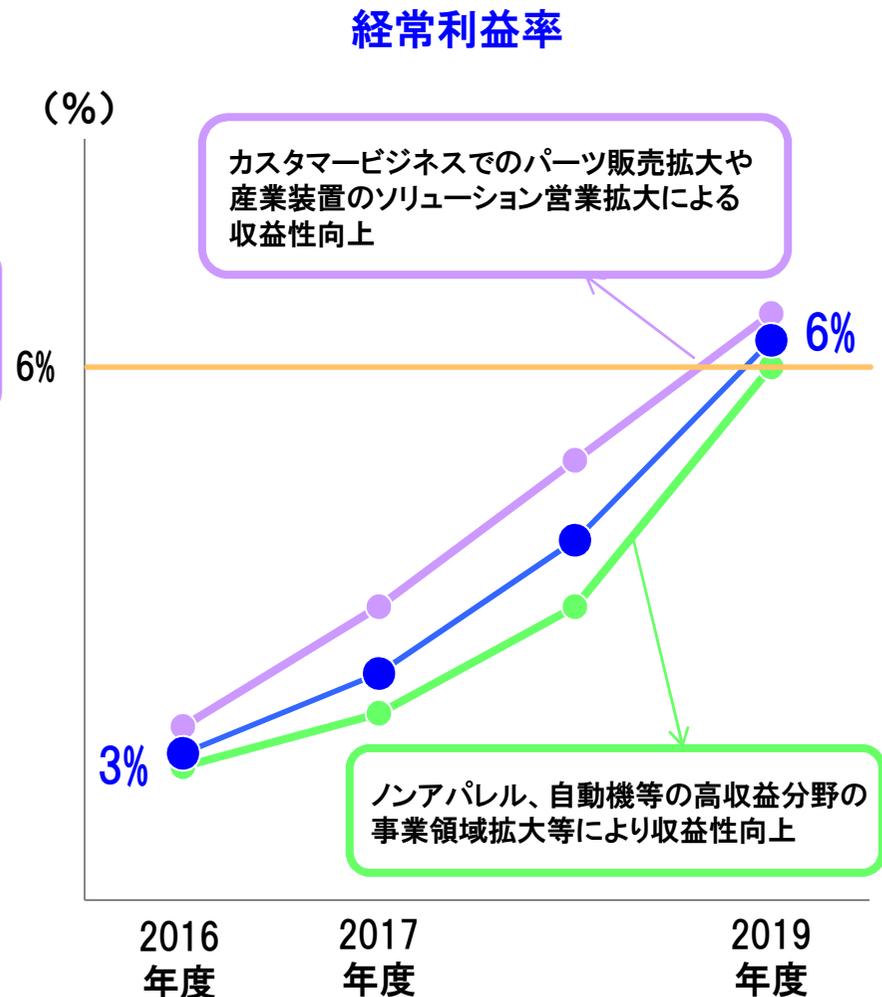
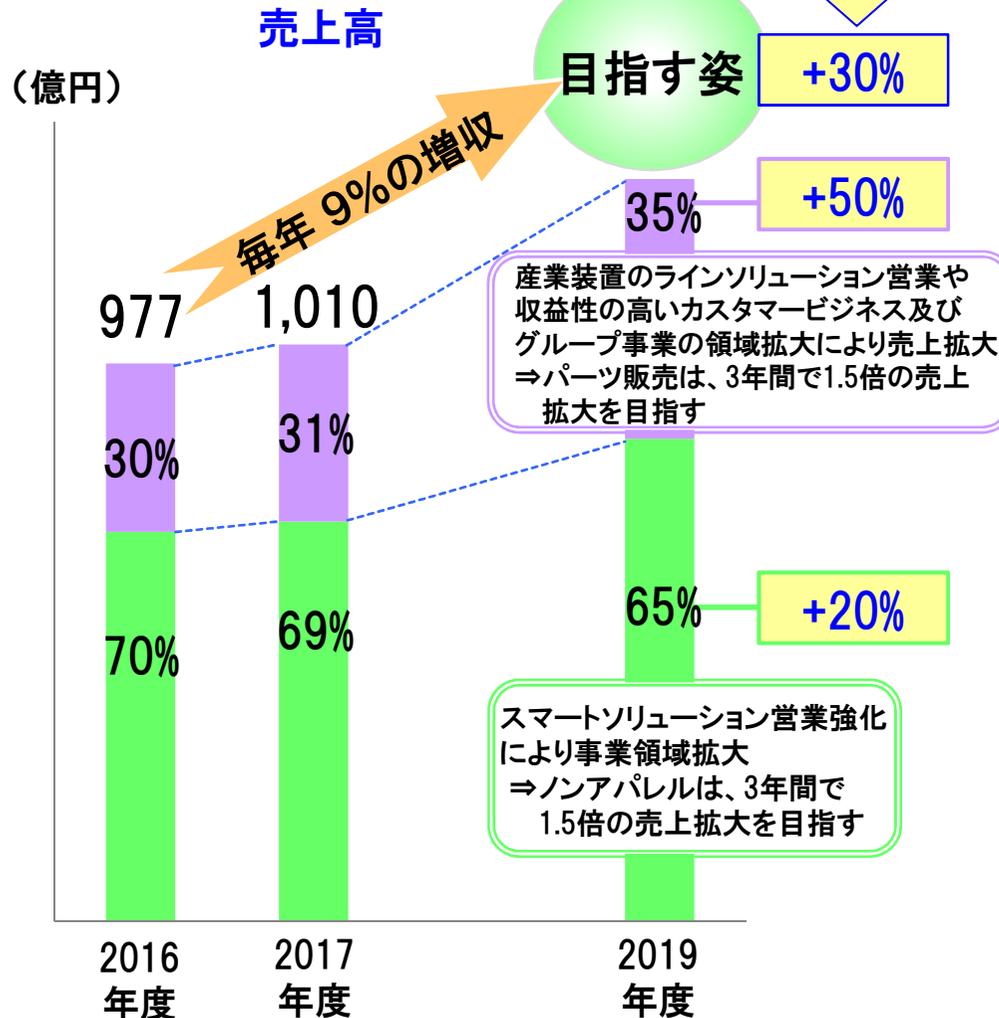
お客様に選ばれる高品質な
製品・サービスを提供しつづける企業

～世界中のお客様へ「感動と安心」
をお届けしよう!! ～

目指す姿

- 成長性 毎年の増収増益
⇒売上高:毎年9%の増収
- 収益性 経常利益率:2019年度は6%以上
- 安定性 自己資本比率 30%以上

【事業別売上高、経常利益率】



■ 産業機器 & システム事業 (産業装置、グループ事業、カスタマービジネス)
■ 縫製機器 & システム事業 (工業用ミシン、家庭用ミシン)

● 産業機器 & システム事業
● 縫製機器 & システム事業
● JUKI全体

中計の為替レート: 1ドル=105円

激しい環境変化に対応し、
持続的に高い収益を上げることができる事業構造を構築する

経営の枠組みの変更

- 組織の“大括り化”により経営資源(顧客・製品・設備・人材)を有効活用し事業成長を図る



2つの事業

縫製機器&システム事業

産業機器&システム事業(新設)

- お客様の省力化・省人化に役立つスマートソリューション展開を強化



製品「装置(単品)」から「装置+システム」へ

- 経営体制のスリム化



管理間接部門のスリム化、経費構造のスリム化

事業ポート
フォリオ

縫製機器&システム事業

工業用ミシン

家庭用ミシン

産業機器&システム事業

産業装置

グループ
事業カスタマー
ビジネス

【産業機器&システム事業を新設】

3つの分野を1つの事業に大括り化し、営業、企画、開発、管理の
リソース(顧客・製品・設備・人材等)をシームレスに活用し、
お客様に幅広いソリューションを提供する

環境認識

- ・ファストファッション市場拡大(大量生産)
- ・ニット市場拡大
- ・自動車、スポーツ関連市場拡大

ビジョン

JUKI Smart Solutionsのもと、革新的技術とシステム提案によりお客様のイノベーションに貢献

重点施策

- ・お客様のスマートファクトリーの実現に向けたスマートソリューション提案による営業力の強化
- ・自動機、自動化・ロボット化製品およびシステム商品の品揃え拡充
- ・成長市場、成長企業の動向を捉えた営業力の強化

2-5-1-2

(1)縫製機器&システム事業(工業用ミシン)

JUKI
Mind & Technology

システム領域を含む事業領域の拡大

スマートソリューションによるラインソリューション提案



本縫いデジタルミシン
DDL-9000C



ニット用ミシン
MF-7900



ポロシャツ前立て装置付き
自動機
AMS-221ENSS3020



靴紐ループ付け
自動機
AB-1360



ノンアパレル用ミシン
LU-2800

2-5-2-1

(1)縫製機器&システム事業(家庭用ミシン)

環境認識

- ・ヘビーユーザー、キルトユーザー層の拡大
- ・日本の手芸ブームは堅調

ビジョン

趣味力の高いお客様(Home Sewer)と
新たな楽しみの創造

重点施策

- ・ホビー・クラフトマーケットでの販売拡大
- ・趣味層のユーザーが多い日本、米国、欧州での販売拡大

2-5-2-2

(1)縫製機器&システム事業(家庭用マシン)

JUKI
Mind & Technology



家庭用マシン



ロックマシン

Home Sewerの創造性をサポートする
JUKIの家庭用マシン

職業用マシン

キルト用マシン

QVPファミリー



環境認識

- ・自動化・省人化ニーズにより事業規模が拡大
- ・自動運転技術の進展により車載市場が拡大

ビジョン

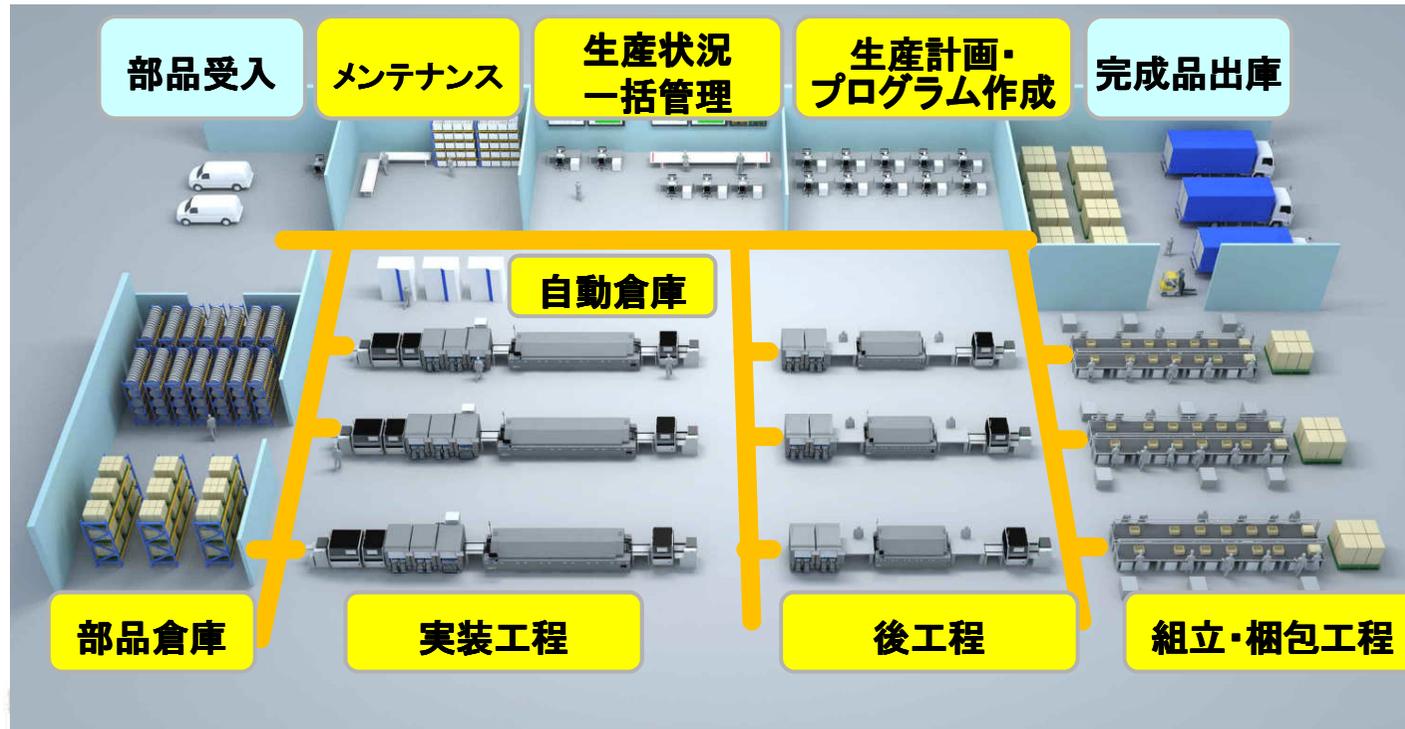
得意分野への集中と自動化・省人化ソリューションで、
お客様にとってなくてはならない事業パートナーへ

重点施策

- ・新製品投入による販売拡大
- ・ラインソリューション営業による販売拡大

スマートファクトリー提案への取り組み

JUKIのスマートソリューションが関連する領域



高速マウンタ
RX-7



汎用マウンタ
RS-1



基板外観検査機
RV-2-3D



実装後工程用マウンタ
JM-20



自動倉庫
ISM2000


 環境認識

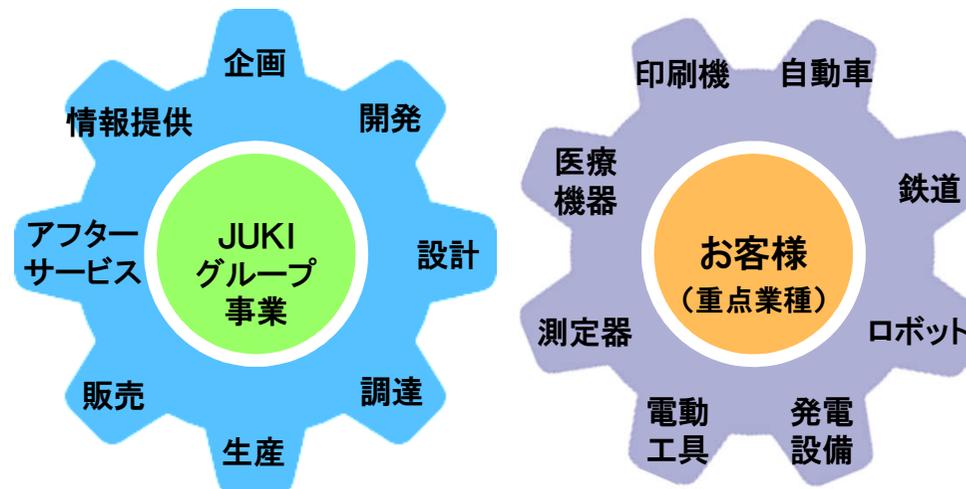
- ・生産の国内回帰の動きなど、国内でのものづくりが増加
- ・大手メーカーからの受注案件が増加


 ビジョン

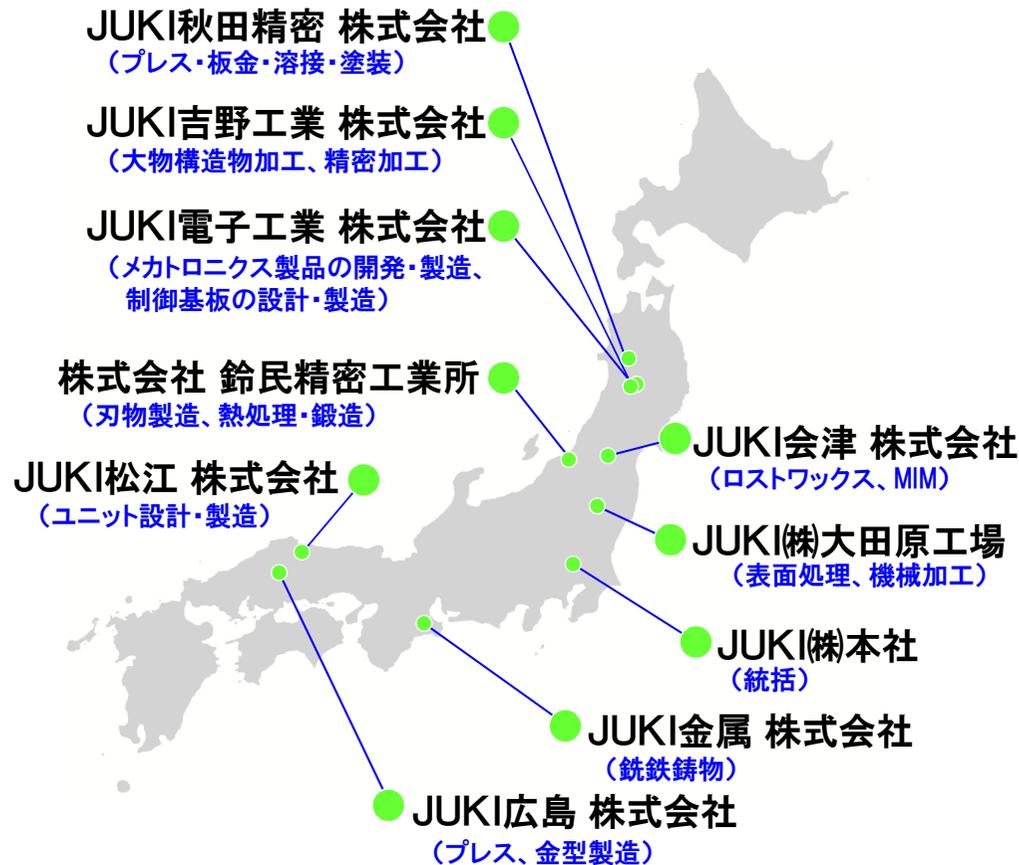
新規顧客開拓と重要顧客の間口拡大でJUKI 第三の柱へ


 重点施策

- ・重要顧客の間口拡大による売上拡大
- ・独自製造技術(精密鋳造・加工・組立等)による受注拡大と独自製品の販売拡大



生産グループ会社(国内9社、海外1社)に、システム機器とスリープバスターを加え、JUKIのものづくり力とネットワークを活用



環境認識

- ・グローバル企業の工場の世界展開(工場の拡散化)に対応
- ・お客様が工場設備の稼動を上げることによるパーツニーズへの対応

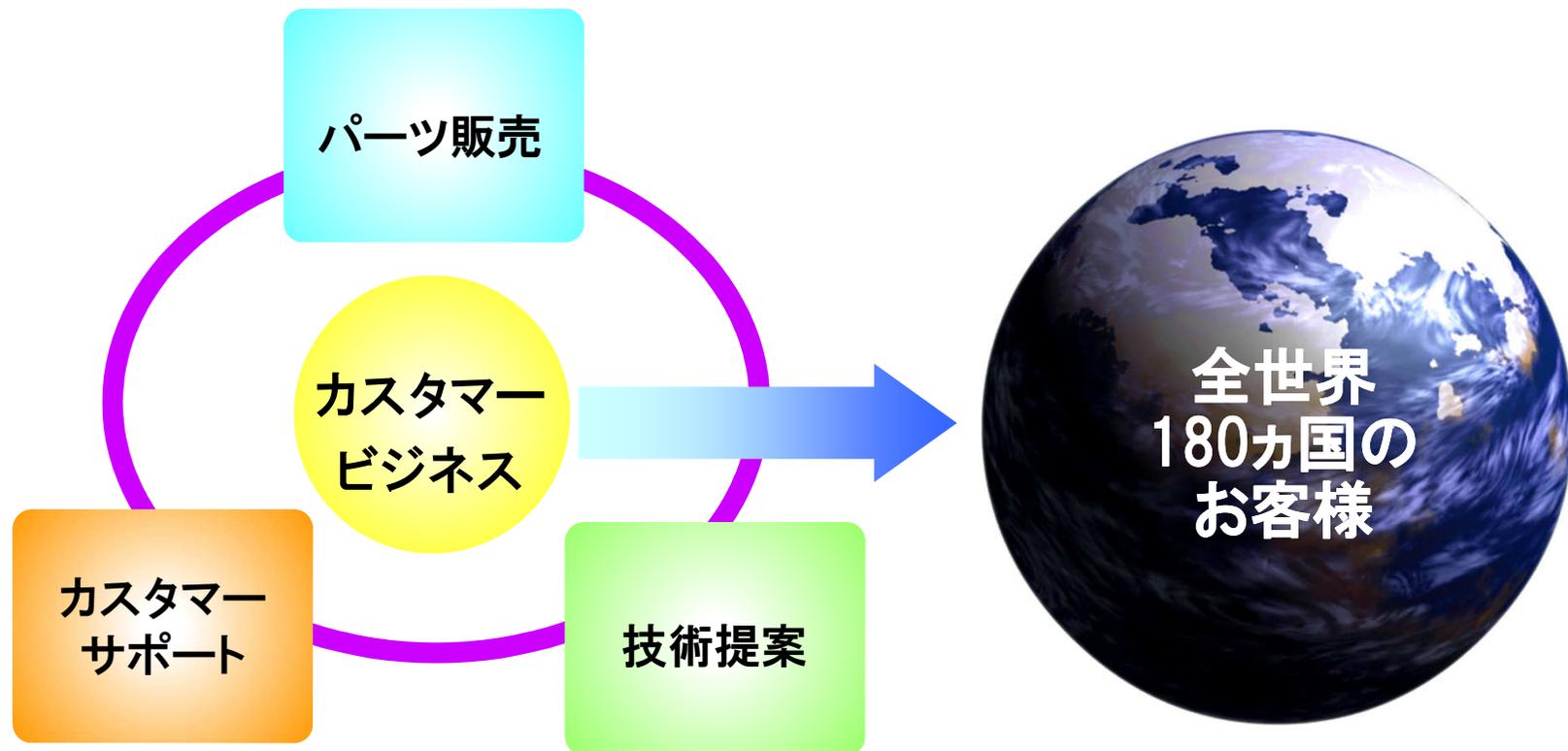
ビジョン

今日頼んだものが、明日必ず手に入るJUKI部品

重点施策

- ・ネットセールス(パーツWebサイトの活用)によるパーツ・装置の販売拡大
- ・JUKI製品関連パーツの納品体制強化
- ・ワールドワイドの販売網を活用

縫製機器、産業装置のお客様に、パーツ販売、カスタマーサポート、技術提案をワンストップでご提供し、お客様へのサービスを大きく拡大



本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。

JUKI 株式会社

お問合せ先： 総務部 総務・広報グループ 担当：寒川^{そう がわ}

TEL :042-357-2398 FAX :042-357-2399

ホームページURL： <http://www.juki.co.jp/>